

# み・ず・な・す

2012年（平成24年）1月1日・壬辰(みずのえ・たつ)

No.10

\*震災・原発事故の被災地の復興を心より願っています。



## 外科医の魂



《院長兼外科部長 小切匡史》

若い頃、教えを受けた2人の先輩外科医の話をして。1人は肝臓外科が専門のA先生です。B型肝炎は知られていましたが、C型肝炎ウイルスの存在はまだわかっていない時代です。肝臓の手術も今ほど洗練されておらず、短時間で素早く肝臓を切ってゆく必要があり、手術中に手術針で自分の指を刺してしまうとか、ゴム手袋が破れて手が血まみれになることは日常茶飯事でした。A先生は、多くの肝臓がんの手術をされ、そのうちにご自身がC型肝炎になり、肝臓がんで亡くなりました。肝炎になるリスクを顧みず、がんに立ち向かった外科医の一人でした。

B先生は、50歳半ばで大腸がんになりました。手術を受けましたが、肝臓に再発、それも手術をして、次に肺に再発、それも手術をしましたが、さらに骨に再発しました。こうなると、手術以外の治療が主体となりますが、B先生は、自分は外科医であるから、とにかくメスで取れるところはとってくれ、と敢然と手術を受けられました。どんな状況にあっても諦めず、手術で何かできることはないかと常に考えるその心意気こそ外科医の真髄です。

こういう先輩外科医たちを見て私たちは育ちました。危険できついと言われ、なり手の少ない外科医ですが、若い外科医たちに、外科医の魂を伝えることが、私の使命と考えています。

☆ ドクターの本音トーク ☆

◎ ナースの一言 ◎

### 『新しい歳』 《神経内科 石川奈々》

なぜ歳をとると子供の頃に比べて1年経つのが早く感じるのでしょうか。哲学者・ジャンネは「主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価される」と説明しています。50歳の人間にとって1年の長さは人生の1/50ほどであるが、5歳の人間にとっては1/5に相当し、体感できる1年の長さの割合が小さくなるので早く過ぎると感じると。ではなぜそう感じるのでしょうか？若い頃は初めて体験することが多く、刺激に溢れています。だが歳をとるにつれて、経験や知識を蓄え、刺激や新鮮さが薄まり、記憶の中身も単調になり、時間の流れが速く感じるようになります。こうした早い時間の流れを止める方法は、新しい経験を意識的に行い、刺激を増やすことです。**新しい1年を迎えて、新しいことを始めてみませんか。**

### 【電車の旅もいいかも】

《3階西病棟 宇野喜代美》  
「なんか違う・・・きれい！広い！明るい！窓も大きく、シートもひろくてきれいな模様！おもむろに車内の写真を撮って、窓の外の景色を眺めて、あっという間の1時間。なんだか居心地がよくて、ひとりなのに今まで感じたことのないうきうき感がある。」これは先日、学会参加のために日帰り!!で熊本に行く時、九州新幹線《つばめ》に乗った時の感想です。後日、ある番組で鉄道デザイナー水戸岡悦治さんの「九州の文化や風土を乗せて走るデザイン」とJR九州の唐池恒二社長の「乗ること自体に感動を覚える鉄道」のコンセプトの結晶だと知りました。あなたも是非感動してみませんか！

## □ 暦の豆知識①！！ □



## タニシパンデミック



\* 今月より“暦の豆知識”シリーズを始めます。第1回のテーマは《六曜（六輝）》です。

六曜とは現在でも冠婚葬祭などでよく利用される[大安・赤口・先勝・友引・先負・仏滅]のことです。カレンダーにも記載されていることありますが、月（旧暦）が変わるとこの順序通りではありません。それは旧暦において、 $(月+日) \div 6 = 商 \dots 余$ の計算をし、割り切れる=余0なら大安・余1なら赤口……余5のときは仏滅となります。ちなみにどの年でも、元旦（1月1日）は先勝、中秋の十五夜（8月15日）は仏滅というように、月日の決まっている日の六曜は変化しません。一度、暦をめぐってみてください。

《地域医療連携室 三井庸江》  
数年前からメダカと川エビを飼っています。川エビは確実に繁殖しており、職場の方々へ養子縁組をしています。メダカはなかなか産卵せず寂しく思っていたところ、川エビを養子縁組した看護師さんからメダカを20数匹と生の水草も頂きました。水槽に移し替えると**タニシ**も3匹入っていて水槽のコケを綺麗にしてくれるとのことで、喜んでおりました。ある日、水槽を覗き込みメダカやタニシを眺めていると、水草にもやもやとした**ゼリー状の塊**がありました。メダカはまだ小さく「まさか、な〜」と思っていたところ、直径1mm程の黒いものがポツポツ出現、それは日に日に増えていき今や30数匹。すべてタニシでした。**ノタノタ動くタニシ**を見ると和む瞬間もありますが、水槽の水の届かない内壁を一斉に登りへばりついている様を見ると……**ギョッ**とします。

## ※ 知ってるようで知らない話 ※

「紀州街道・見たり聞いたり歩いたり（10）」

《みずなす編集担当 江間一夫》

【1】大阪市（今回も住吉大社特集です。）

- ①車返の桜：後醍醐天皇が住吉大社参詣の際、桜を見るために牛車を引き返した。
- ②大海神社：祭神は豊玉彦命と豊玉姫命。本殿前の「玉の井」の井戸に海神より授かった「潮満珠（しおみつたま）」を沈めたと云う伝承がある。重文。住吉造。
- ③初辰詣り：毎月初めての「辰」の日に商売繁盛を願って参拝する。48ヶ月参拝し、「始終発達」。種貸社→楠瑠社→浅沢社→大歳社の順序で参拝。  
小さな「招き猫」（¥500）を48個集めると大きな「招き猫」と交換できる。
- ④住吉祭：8月1日午後、神輿とその行列が住吉大社を出発。猿田彦の先導で宮司や守護の武者が騎馬で大和川に至る。川の中州に注連縄で結界が設けられ、そこで大坂の担ぎ手と堺の担ぎ手が交代し、宿院頓宮まで神幸する。

①



②



③



④

